

湖誠会 会派視察報告書

平成30年2月28日(火)

香川県丸亀市川西地区

川西地区自主防災会の先進的な取り組みについて

【はじめに】

大津市では、「災害への対応は、行政からの公助に加え、一人ひとりが自分で身を守る自助、みんなで助け合う共助の力を強化することが重要で、一つ一つは小さな事項であっても、そのことを確実に行うことが災害時の生存に大きく影響することを知り、一人ひとりが可能なことを実施することが重要となります。」とし、消防局では、平成18年に作成した自主防災マニュアルを全面改訂し、自主防災活動マニュアルとして発行している。

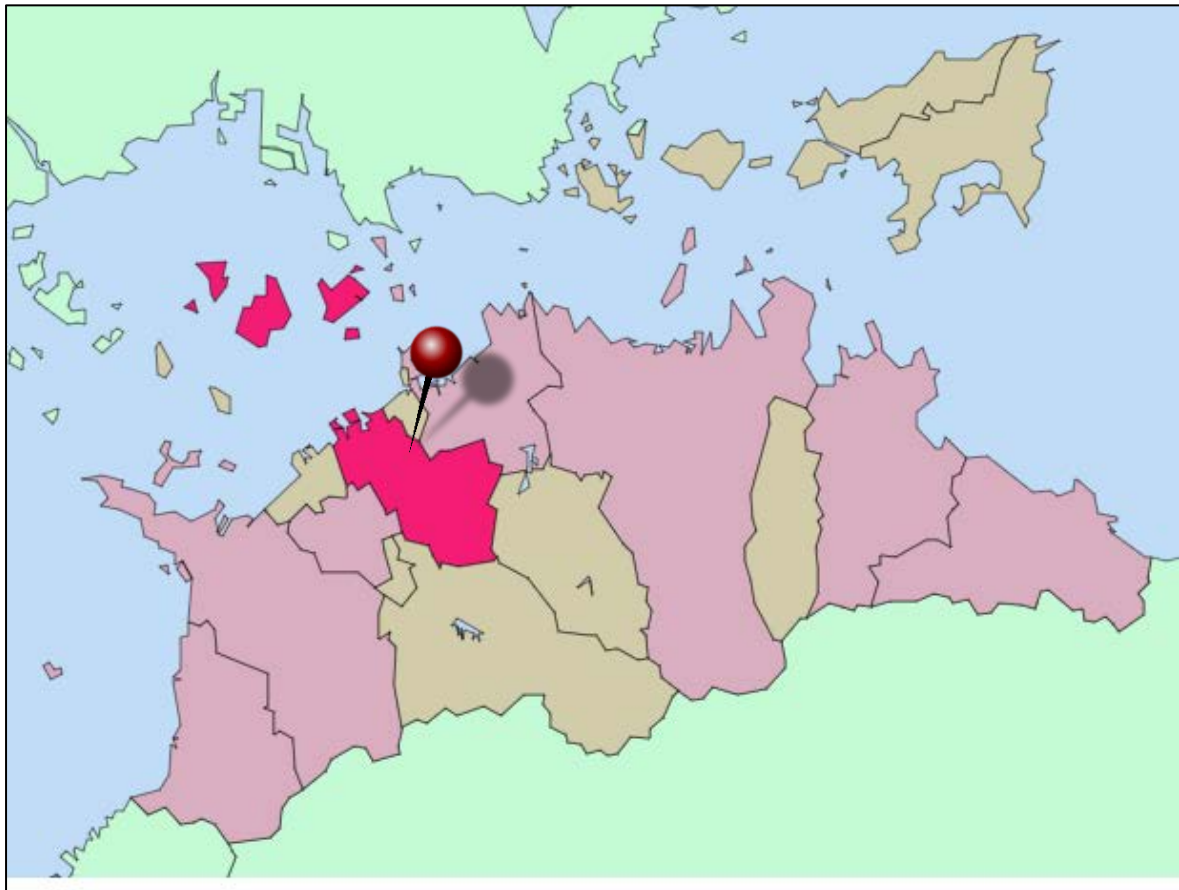
このマニュアルは、第1章で自主防災組織についての概要、第2章で平常時における自主防災組織の活動、第3章で災害時における自主防災組織の活動について解説しており、特に自主防災活動として、大津市内にあっても、『自分たちの街は、自分たちで守ろう！』との意識で、地震災害等の被害軽減を目的として、地域住民の皆さんの間で、自主的に結成し防災組織を編成している。

平常時には防災訓練等に積極的に参加し、防災意識や技術の習得、お互いに助け合う協力体制づくりを行い、災害発生時には、自発的に初期消火活動、救出救護避難誘導等の活動を地域リーダーなどの指示のもと、一致団結して組織的に行っていますが、この度、自主防災組織の活動について、先進地である香川県丸亀市川西地区を訪問し、今後の議員活動に資するべく研修を行った。

【香川県丸亀市川西地区の概要】

川西地区は、瀬戸内海から約5 km内陸に位置して香川県唯一の一級河川土器川左岸に南北で5 km、東西広いところで1 kmと包丁の形をした細長い地域である。

人口約7,000 人、世帯数2,700 という小さな地域の中に、香川県の特長ともいえる大きなため池が3個存在しているまちでもあります。過去100年間に大きな災害といえば、河川氾濫による田畑の流失と昭和南海地震によって家屋の半壊等10 戸程度であって、自然災害の少ない地域である。



【調査項目】

新しいまちづくりとして、丸亀市では平成6～7年ごろにかけて、小学校校区単位に自ら地域課題を解決しようとする「コミュニティ組織」を誕生させた。

丸亀市全校区がそれぞれの課題解決に向け、新しいスタイルでのまちづくり地域づくりを目指し、川西地区にとっても期待をもってスタートしました。しかしながら、4～5年経過した段階でもコミュニティ組織結成前と何ら変わった事もなく期待外れの感をもつに至った。

そこで、地域防災力を常に維持させておくことについて議論されました。その中で自主防災会と地元消防団の平日における稼働力を検討してみると、災害時に必要十分な力を有していない状況があきらかとなり、福祉施設や幼稚園、保育所等への「避難支援」「安否確認」などの活動を展開するには、どうしても地元の企業・団体等（以下、「他機関」という）の従業員等の力が必要不可欠だということが分かりました。他機関との接点は、地域側に平素からの意識が強くなければチャンスは生まれず、常に他機関へという気持が必要とのことであり、具体的には、工場増設や、店舗新增設にかかる土地のあっせん、進入路、排水、騒音等、地域の生活課題に関する事や営業展開に伴う地域支援などを積極的に行えることが必須とされ、最終的に他機関の皆様がこの地域で業を営んで良かったとさせていただく事が大切だとされた。

平素から他機関の皆様とは、仲間であるという気持を強くもち続けることのあらわれとして、定期的な訪問活動や地域情報誌をキチンと送り届けることがとても重要になってくるとのことであった。

川西地区自主防災会の歩み

- ・平成14年 2月 丸亀市に自主防災会設立を届出
- ・平成19年 1月 第11回防災まちづくり大賞消防科学総合センター理事長賞受賞
- ・平成19年11月 地方自治法施行60周年記念総務大臣賞受賞
- ・平成20年 4月 知事表彰「特別功労」の第6回かがわ21世紀大賞受賞
- ・平成22年 3月 第14回防災まちづくり大賞総務大臣賞受賞



▲受賞のきっかけとなった防災の手引（平成18年8月）

【所 感】

川西地区は、旧在所の中に新住民が居住する中において、旧来の風習や慣習が抜けきらない中で、住民組織が形骸化し地域コミュニティの弱体化が顕在化してきたため、防災面から地域の因習にとらわれない新たな地域コミュニティ組織として、企業や行政からの補助金ならびに住民からの負担も得て運営されてきた。

新旧住民が地域の実情を再確認し、過去において水害に見舞われてきた地域であること、災害は何時訪れてもおかしくないといった観点から「地域づくり協議会」を発足し、地域コミュニティの再構築を模索されてきた。

特に、立ち上げたものの遅々として進まず、消防署から訓練後に叱咤激励を受けたことを契機に、「防災とまちづくり」シンポジウムの参加をきっかけとして「人づくり」「物づくり」「絆づくり」の提言を受け、PDCAサイクルを使いながら進めてこられた。

平成7年3月に地域コミュニティを立ち上げ、5～6年経過するも活性化の兆しが見えず、次世代への引き継ぎや高齢化を踏まえ、地域コミュニティの再構築といった観点から、自治会加入促進に向けて独自にポスター掲示や幟、街宣車等による活動を進められてこられたが、なかなか増えないといったジレンマに陥っておられた。

今後は戸別訪問も検討されているようである。

自主防災活動に力点を置き、ボランティアや地域貢献活動に積極的な人材発掘に尽力されている。

マンネリ化対策の一環として、要支援配慮者の設置や、民生委員との協調体制の拡充、啓発活動の一環として幼稚園や小学校の保護者への対応、小学校や地域内企業等との協力体制を構築するなかで、自らの安全は自らが守るという気概を持つことの重要性を、今回の視察において感じた。